



高知医療センター

各局による

- ▶ 看護局
- ▶ 薬剤局
- ▶ 医療技術局
- ▶ 栄養局
- ▶ 事務局

クオリティ・インディケーター (QI) クリニカル・インディケーター (CI)

看護局における『医療の質向上への取り組み』 看護局長 田鍋 雅子

看護局は、これまでと同様6つの指標データを報告いたします。
 指標1の「各種資格取得人数」は、一定の専門性が証明された資格を有する者を資格取得者として報告しました。資格取得者も増えていきますので、今年度は提示している資格一覧の見直しを行いました。その関係で資格取得者率が変動しております。院内では、資格取得者らが中心となり研修会を開催する等、看護の質向上を目指した看護力の育成に注力しています。院外に向けては、認定看護師、専門看護師による30分～1時間以内の研修やコンサルテーションを、主に平日時間内に無料で派遣しております。詳しくは看護局のホームページをお訪ねいただくとともに、お気軽に看護局教育担当または地域医療連携室にお問い合わせください。(http://www2.khsc.or.jp/info/dtl.php?ID=2116&routekbn=s「コンサルテーション・派遣依頼」)
 指標2は、一般的に経験年数5年以上の看護師はジェネラリストとしての臨床実践能力を備えているといわれており、当院の看護師の質を反映する一つの指標と考え、経年的に比較しています。平成30年度から看護協会のWLBインデックス調査に参加し、職員が働き続けることができる職場を目指して、業務改善や働き方の見直しなどに取り組んでいます。
 指標3は、徐々に増加し、約10%となりました。設定していた目標と比較するとペースはゆっくりですが、今後も増加をめざしたいと考えています。数値は、厚生労働省衛生行政報告例の

男性看護師構成比率7.8%(平成30年度)を上回っています。急性期病院、基幹災害拠点病院といったクリティカルな領域だけではなく、こころのサポートセンターでは、成人精神科、児童精神科の外来・入院医療も担っています。男性看護師が増えることで、より幅広い看護の提供につながると考えています。
 指標4は、新人看護師研修の充実と病院全体で継続して新人看護師を育てていることの証であると考えています。『新人看護師を育てることは私たちの看護を育てること』を合言葉に新人看護師の育成に取り組んでいます。職員同士、互いに育ち合えるよう、さまざまな仕掛けで看護師の教育力を高める工夫が必要と考えています。
 指標6は、若干改善してきました。専門看護師らの地道な活動や実践により、デスカンファレンスによる医療・ケアの質向上につながりつつあります。また、亡くなられた患者さんのご家族や、職員のグリーフケアについて考える機会へとつながっていると考えます。今後も取り組みを継続して、デスカンファレンスの定着を図りたいと考えます。
 看護師は、外来・検査・手術など、治療を受けられる患者さんの傍で看護を展開しています。褥瘡発生率や転倒転落発生率などの看護に関わるインディケーターにも注目しながら、看護基準・手順を遵守することをベースに、質の高い看護の提供につなげる必要があると考えています。

看護局「看護の質」インディケーター 2018

指標番号	指標名称	H28	H29	H30	算出単位	分子/分母および備考		
看護 1	各種専門領域認定資格取得者率(%)	20.1	21.1	21.7	年度	分子：各種専門領域認定資格取得者数(詳細は下記) 分母：看護局所属の全職員数 備考：特定の専門領域の認定資格取得や研修修了者数は看護ケアの質に影響する(H28年度は142/705人、H29年度は153/726人、H30年度は160/738人)		
	各種資格取得人数(人)		H28	H29	H30	各種資格取得人数(人)		
	がん看護専門看護師	3	3	3	レシビエント移植コーディネーター認定	1	1	2
	小児看護専門看護師	2	3	3	日本褥瘡学会認定師	1	1	1
	急性・重症患者看護専門看護師	1	1	2	栄養サポートチーム専門療法士 認定	1	1	1
	家族支援専門看護師	1	1	1	呼吸療法認定士	24	25	25
	皮膚・排泄ケア認定看護師	3	3	3	心臓リハビリテーション指導士	3	2	2
	感染管理認定看護師	2	2	2	リンパ浮腫指導技術者	3	4	4
	集中ケア認定看護師	2	3	3	インターベンションエキスパートナース	7	8	7
	不妊症看護認定看護師	2	2	2	消化器内視鏡技師	8	6	7
	救急看護認定看護師	2	3	3	第2種滅菌技士	0	2	3
	新生児集中ケア認定看護師	1	1	1	ICLSインストラクター (ICLS/BLSインストラクター)	8	8	7
	脳卒中リハビリテーション認定看護師	1	1	1	JPTECインストラクター	4	3	2
	摂食・嚥下障害看護認定看護師	1	1	1	JNTECインストラクター	1	3	3
	慢性呼吸器疾患看護認定看護師	1	1	1	JTAS(緊急度判定支援システム)インストラクター	1	1	1
	手術看護認定看護師	1	1	1	KIDUKI(ファシリテーターコース)	1	2	2
	慢性心不全看護認定看護師	1	1	1	ISLS/PSLS(脳卒中初期診療)ファシリテーター	1	1	1
	がん性疼痛看護認定看護師	1	1	1	災害派遣医療チーム研修(日本DMAT)	9	14	13
	がん化学療法看護認定看護師	2	2	2	災害派遣医療チーム研修(高知DMAT)	6	3	5
	乳がん看護認定看護師	1	1	1	高知県看護協会災害支援ナース	3	3	4
	がん放射線療法看護認定看護師	0	1	1	新生児蘇生法「専門」コース・インストラクター	4	4	5
	日本精神科看護協会 精神科認定看護師	0	1	1	プラクティカルCTG判読スペシャリスト	6	6	6
	日本看護協会認定看護管理者	6	6	7	がん領域(ELNEC-J)指導者	0	1	2
	第一種衛生管理者	4	4	4	急性期領域(ELNEC-J)指導者	0	1	1
	医療安全管理者認定	2	2	2	弾性ストッキング・コンダクター認定	2	2	2
	日本糖尿病療養指導士	2	2	3	アロマセラピー検定1級	3	1	1
高知県臓器移植院内コーディネーター	3	3	3					

指標番号	指標名称	H28	H29	H30	算出単位	分子 / 分母および備考
看護 2	経験年数5年以上の看護師の占める割合 (%)	74.0	76.6	78.7	年度	分子: 経験年数5年以上の正規看護師数 分母: 看護師(正規職員)数 備考: 一般的に経験年数5年以上の看護師はジェネラリストとして臨床診断能力や実践能力を備えている
看護 3	男性看護師割合 (%)	8.5	9.4	9.8	年度	分子: 正規男性看護師数 分母: 看護師(正規職員)数 備考: 男性看護師と女性看護師の考え方(視点)や、性差は看護の質に影響する
看護 4	新卒新人看護師3年定着率 (%)	81.6	81.8	82.5	年度	分子: 3年前の4月1日採用の新卒新人看護師のうち、データ抽出時点で勤務継続している看護師数(4月1日を起点とする) 分母: 3年前の4月1日採用の新卒新人看護師 備考: 臨床経験3年目は、クリニカルラダーレベルIIに到達し日常的な看護実践がほぼ単独で実践できる。医療チームの一員として役割を遂行できる看護師の確保は看護の質向上に繋がる
看護 5	多職種カンファレンス件数(件)	2,246	2,311	2,562	年度	分子: 実施件数 分母: - 備考: チーム医療の実施状況を示すとともに、「多職種を交えて、効果的にカンファレンスが行われることが患者のニーズに沿ったケアやチームメンバー間の関係性の向上に結びつく」といわれており、協働を促進し共通の患者目標を持つことでケアの質が向上する
看護 6	デスカンファレンス実施率 (%)	6.5	6.7	9.6	年度	分子: デスカンファレンス件数 分母: 死亡退院患者数 備考: 家族および職員のグリーフケアが行われた割合を示す

薬剤局における『医療の質向上への取り組み』 薬剤局長 田中 聡

薬剤局では、安全で安心な薬物治療を支援するために、調剤・製剤等の医薬品供給業務に加えて、病棟業務、がん化学療法安全管理、抗菌薬の適正使用への介入、救急医療支援業務や専門的医療チームへの参加など、様々な業務を行っています。

表にH30年度までの薬剤局のクリニカル・インディケーターを示しました。がん化学療法では薬剤師が監査・調製を担うことで安全管理を行います。すべての抗がん剤調製は専任薬剤師が行う体制を確立しており、治療の適応が拡がり年々進化した増加する抗がん剤治療にも24時間体制で対応します(指標1)。また医療の進化に伴い複雑化する処方・注射も同様に、その供給と適正使用推進の役割を担います(指標2・3)。

病棟業務では薬剤管理指導による薬歴管理や積極的な医薬品情報提供で症例に介入し、臨床薬剤業務を行います。その中で病棟スタッフや患者さんを対象に行う質疑応答がありますが、指標4は病棟での薬物治療における多職種連携を確認できる指標です。H30年度は相談・情報提供件数が4,872件/年でした。

指標5は、入院で注射用抗MRSA薬(バンコマイシン、テイコブラニン、アルベカシン)の血中濃度を測定し、薬剤師の解析により投与設計した患者さんの割合です。抗MRSA薬(MRSA: 多くの抗生物質に耐性を持つ黄色ブドウ球菌)は、TDM(薬物血中濃度モニタリング)による治療効果と副作用の発現に関するエビデンスが確立されており、TDMの実施は抗MRSA薬適正使用のための重要な業務の一つです。H30年度のTDMの実施率は86.4%でした。短期間の使用でTDMが必要ない症例を除くとほぼ100%に近い実施率と考えています。

指標6に薬剤局の各種認定資格取得者数を挙げました。質の高い薬物治療を提供していくために各種資格取得者の拡大を推進しています。また基幹災害拠点病院である当院では、災害訓練や研修に薬剤師も積極的に参加し、日本DMAT隊員や災害薬事コーディネーターなど災害医療に欠かせない役割を担う薬剤師の育成にも力を入れています。

今後も薬剤師としての知識・スキルを高め、質の高い医療を提供できるよう取り組みを進めてまいります。

薬剤局「薬学的管理の質」インディケーター 2018

指標番号	指標名称	H28	H29	H30	算出単位	分子 / 分母および備考						
薬剤 1	抗がん剤調製件数(件)	15,527 (58.6)	15,563 (58.6)	16,643 (61.2)	年度	分子: - 分母: - 備考: 抗がん剤注射の調製と監査による安全管理()は平日1日平均件数						
薬剤 2	処方薬処方箋枚数(枚)	97,457 (305.5)	98,989 (309.2)	94,863 (303.5)	年度	分子: - 分母: - 備考: 処方薬の取り揃えと監査による処方の適正化()は平日1日平均枚数						
薬剤 3	注射薬処方件数(件)	468,914 (1,388.1)	481,600 (1,410.5)	482,418 (1,429.3)	年度	分子: - 分母: - 備考: 注射薬の取り揃えと監査による処方の適正化()は平日1日平均件数						
薬剤 4	多職種連携における質疑応答件数(件)	4,698	6,415	4,872	年度	分子: 病棟での医師、看護師等からの医薬品に関する相談と情報提供件数 分母: - 備考: チーム医療における薬剤師の貢献度としての指標						
薬剤 5	抗MRSA薬のTDM実施率 (%)	83.5	86.8	86.4	年度	分子: 抗MRSA薬血中濃度測定患者数 分母: 抗MRSA薬投与患者数(単回使用を除く) 備考: 抗MRSA薬の適正使用に関する指標						
薬剤 6	薬剤局に関連する各種認定資格取得者延べ人数(人)	25	26	24	年度	分子: - 分母: - 備考: 特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、薬剤師による薬物療法への支援業務の質が向上する						
	各種資格取得人数(人)			H28	H29	H30	各種資格取得人数(人)			H28	H29	H30
	日本薬剤師研修センター認定実務指導薬剤師			7	7	7	日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師			2	2	3
	日本医療薬学会認定薬剤師			2	2	1	日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門薬剤師			1	1	2
	日本病院薬剤師会認定指導薬剤師			3	2	2	日本臨床救急医学会救急認定薬剤師			3	3	2
	日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師			2	2	1	日本DMAT隊員			1	3	2
日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師			1	1	1	高知県災害薬事コーディネーター			3	3	3	

医療技術局における『医療の質向上への取り組み』 医療技術局長 谷内 亮水

医療技術局では、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、視能訓練士、臨床工学技士の8職種が、自分たちが提供している医療技術が本当に質の高いものであるかを客観的に評価するために安全とサービス、技術の3つの分野(6つの指標)で機能を数値化し公表しています。

下記の表には指標別に平成30年度のクリニカル・インディケーターを提示しています。臨床検査技術部では、当院の基本理念に基づき患者さんおよび医療従事者に対して、安全で快適な医療環境を提供するため、全職員で感染防止対策に取り組んでいます。感染対策の基本である適切な場面での手指消毒と個人防護具(マスクや手袋など)の着用について、実施状況の指標のひとつに消費量チェックがあります。多くの患者さんと関わり、全フロアへ来室検査を実施する生理検査科を対象に手指消毒薬と手袋の消費量をクリニカル・インディケーターとして取り上げています。使用量は年々増加しており、職員に感染防止対策が浸透していると考えられます。一方、血液管理科では平成28年4月より運用を開始した「輸血後感染症検査」の実施率をクリニカル・インディケーターとし、向上に取り組んでいます。当院で輸血をされた患者さんについては、院内でのフォローだけでなく地域の他の医療機関からも検査結果を送っていただき、血液管理科でチェックし電子カルテへの取り込みを実施しています。輸血後感染症早期発見のため、検査実施率向上に取り組めます。

リハビリテーション技術部では早期離床・廃用症候群の予防に向け、発症または術後早期より救命救急病棟を含むベットのサイドにて超早期のリハビリテーションに取り組んでいます。多くの診療科と連携を深める事で、入院患者さんの早期の社会復帰や、転院調整がスムーズに行えるように多職種とのチーム医療に参加しています。また、平成28年度からは救命救急病棟に専任の理学療法士を配置、平成29年度からは日曜日勤務に2名体制を開始することで365日、切れ目の無いリハビリテーションに取り組んでいます。

医療技術の発展と多様化に伴い、多くの医療機器が医療現場に導入されています。医療機器を安全に使用するためには、医療機器の使用に関する知識を向上させることが必要です。そのため臨床工学技術部では医療機器の知識習得の指標として、院内の医療機器研修会の開催回数をクリニカル・インディケーターとして取り上げています。臨床工学技術部では、研修を通じて医療機器を適切に使用するための知識と技能の習得に努めています。

放射線技術部では放射線技術の専門性、多様性に対応するため専門技師の育成に力を入れています。特に各分野の学会、講演会を聴講するだけでなく学術発表や講演を自らい、レベルアップと技術の伝授に力を入れています。

今後も、良質な医療技術の提供に取り組んで行きたいと考えています。

医療技術局「医療技術の質」インディケーター 2018

指標番号	指標名称	H28	H29	H30	算出単位	分子/分母および備考
医技1	生理検査科における手指消毒薬使用量(本)	77	75	91	年度	分子：手指消毒薬の使用量 分母：— 備考：手指消毒薬は250mlを1本とする
医技2	生理検査科における手袋使用量(箱)	59	123	133	年度	分子：手袋の使用量 分母：— 備考：1箱250枚入とする
医技3	輸血後感染症検査実施率(%)	17.9	17.8	17.0	年度	分子：輸血後感染症検査実施数 分母：輸血患者数 備考：院外で実施された輸血後感染症検査を含む
医技4	入院患者におけるリハビリテーション実施率(%)	26.7	27.2	27.0	年度	分子：リハビリテーション実施患者数 分母：入院患者数
医技5	医療機器に関する研修開催数(回)	116	141	152	年度	分子：医療機器に関する研修開催数 分母：— 備考：メーカーによる研修を含む
医技6	放射線技術についての学会発表・講演の割合(技師一人あたりの回数)	0.65	0.32	0.55	年度	分子：放射線技術に関する学会発表と講演回数 分母：放射線技師の職員数 備考：放射線技術の質が向上する

栄養局における『医療の質向上への取り組み』 栄養局長 福井 康雄

栄養局では開院時から各病棟に管理栄養士を配置し、臨床栄養管理を行っています。

近年、栄養療法の重要性は院内全体に共有され、病棟管理栄養士の役割も認識されています。管理栄養士の業務としては、最初に栄養不良患者さんをスクリーニングし、病状・治療経過・臨床データなどの情報を収集します。次にそれに基づいたアセスメントを行い、面談やカンファレンスなどを通じて適

切な栄養介入を行っています。又、日々の栄養管理に加え、チーム医療としてNST(栄養サポートチーム)に参加しています。

一方、高知県立大学との連携事業では「慢性腎臓病(CKD)患者さんのための食事療法手引き」を開発しパンフレットを作成・配布しております。今年度はパンフレットを用いた料理教室を予定しています。

■各種認定取得の指標

栄養局では管理栄養士における各学会等の認定取得を指標として挙げています。認定取得を推進するために学会発表や研修会参加をサポートしています。

■栄養指導実施率の指標

管理栄養士が医師の依頼をもとに行う栄養食事指導件数を指標としています。栄養士の視点から各種データを評価し栄養

指導の必要性を医師に提案しています。

診療報酬改訂に伴う規定時間の増加、職員の移動などにより一時的に件数が低下しております。各職員のスキルを上げること及び外来患者さんへの取り組み強化により、実施件数増加を目指します。栄養食事指導を行うことで、入院中はもとより退院後の食生活改善につながります。

栄養局「臨床栄養管理の質」インディケーター2018

指標番号	指標名称	H28	H29	H30	算出単位	分子/分母および備考		
栄養 1	入院・外来の栄養食事指導件数(件)	4,408	3,867	4,177	年度	分子：－ 分母：－ 備考：個人・集団栄養食事指導の算定件数		
	栄養局に関連する各種認定資格取得者率(%)	211.1	222.2	233.3	年度	分子：各種認定資格取得者数 分母：栄養局所属の全職員数(詳細は下記) 備考：特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、管理栄養士による栄養管理および栄養治療の質が向上する(H28年度は19/9人、H29年度は20/9人、H30年度は21/9人)		
栄養 2	各種資格取得人数(人)					H28	H29	H30
	糖尿病療養指導士(日本糖尿病療養指導士認定機構)					4	4	4
	高知糖尿病療養指導士					0	0	2
	腎臓病療養指導士(日本腎臓学会・日本腎不全看護学会・日本栄養士会・日本腎臓病薬物療法学会)					0	0	1
	栄養サポートチーム(NST)専門療法士(日本静脈経腸栄養学会認定)					2	2	2
	TNT-D認定管理栄養士(日本栄養士会認定)					3	3	1
	日本病態栄養学会認定病態栄養専門師(日本病態栄養学会認定)					4	4	4
	日本病態栄養学会認定がん病態栄養専門管理栄養士(日本病態栄養学会認定)					3	3	3
	日本病態栄養学会認定がん病態栄養専門管理栄養士研修指導士(日本病態栄養学会認定)					3	3	3
医療安全管理者(日本病院会認定)					0	1	1	

事務局における『医療の質向上への取り組み』

事務局長 吉村 修二

事務局では、高知医療センターが、県内の基幹的な公立病院としての役割を継続的に果たすことができるよう「高知医療センター経営計画」を策定し「経営の健全化」に取り組んでいます。また、医療現場において、高度急性期病院としての機能を十分に発揮するために人的及び物的な環境整備をしっかり行い、県民、市民から信頼される公立病院として高水準の医療を安定して提供できるよう努めています。

事務局における人的環境整備として、診療情報管理士や医療情報技師、医療ソーシャルワーカーなどの専門職を採用するとともに、医師事務作業補助者(医療秘書)による診断書や証明書、診療情報提供書等の書類作成、学会関連のデータ登録や調査等、医師の事務作業を軽減し、医師が患者さんに向き合う時間を多くとれるよう体制強化に取り組んでいます。今後もより良質な医療を安定して提供できる取組を進めてまいります。

事務局「医療事務管理の質」インディケーター2018

指標番号	指標名称	H28	H29	H30	算出単位	分子/分母および備考		
事務 1	事務局に関連する各種認定資格取得者率(%)	53.6	65.4	56.9	年度	分子：事務局に関連する各種認定資格取得者数 分母：事務局所属の全職員数(詳細は下記) 備考：特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、事務職による医療事務の質が向上する (H28年度は30/56人、H29年度は34/52人、H30年度は33/58人) ※複数の資格を取得している者を重複計上		
	各種資格取得人数(人)					H28	H29	H30
	診療情報管理士					10	13	12
	医療情報技師					4	5	5
	社会福祉士					10	10	10
精神保健福祉士					6	6	6	
事務 2	医師事務作業補助者(医療秘書)	45	44	44	年度	分子：－ 分母：－ 備考：医師の事務的業務を補助することにより、医師が診療に専念でき、医療の質が向上する		